事例No.	2471
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	新潟県粟島浦村

事例区分	地域活性化

タグ	・教育・子育て ・関係人口 ・移住定住

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

育つ粟島～人が育つ島づくり～

出典

令和2年度優良事例表彰一覧

総務大臣賞

粟島浦村（あわしまうらむら）

育つ粟島
～人が育つ島づくり～



しおかぜ留学生を含む粟島浦小中学校全児童生徒は、伝統的にソーラン節（島っこソーラン）を踊る。粟島の各行事やイベントの中で、島民や観光客へ披露する。その中で留学生も島の子供になる自覚が促されていく。

●事例の概要

過疎・高齢化が進む粟島浦村では、小中学校の児童生徒数が減少傾向にあり、平成 24 年に将来の予測を行ったところ、平成 30 年には島内中学生が２名になるという結果を受け、平成 25 年度より島外の児童生徒を受入れる「しおかぜ留学」を行っている。

しおかぜ留学では、小規模離島ならではの「暮らし」の体験や、馬の飼育活動を通した「命の教育」、島の豊かな自然に親しみながら取組む「環境学習」、地域行事やイベントへの参加、地域の中でのさまざまな体験を通した「キャリア教育」等の特色ある教育が行われている。教育の中では、島民のお手伝い等を通して、生徒ら自身の経験とともに、地域の住民としての役割を担う人材としても一役担っている。

留学生の中には将来は粟島浦村で暮らしたいという留学生や、しおかぜ留学の卒業生が村の成人式に出席する等、交流人口の拡大、島全体の活性化をもたらしている。



あわしま牧場で提供される、教育プログラムの様子。朝は６時から牧場で馬の世話を行い、夕食前にも活動を行っている。スキルに合わせて乗馬も行い、しおかぜを浴びながら爽やかに日々を過ごす。生き物の世話は大変だが、まさしく命の教育を通じて、かけがえなのない経験をすることになる。

●評価のポイント

粟島浦村では唯一の小中併設校の児童生徒数が平成 24 年度に 11 名となり、翌年一桁になることから、平成 25 年度からしおかぜ留学の実施を決めた。島にはかつて野生馬がいたことから、特色として馬とのふれあいによるいのちの教育をアピールしている。

平成 25 年度は留学生６人に移住者の子供３人を加えて児童生徒数は 17 人となり、留学生は朝６時と夕方４時の餌やりを始め馬糞の始末や馬小屋の掃除に加え、乗馬の練習にも励むようになった。平成 29 年度からは牧場が教育委員会の管理となり、全国乗馬倶楽部振興協会 OB に本格的指導を依頼し、留学生のみならず、馬の専門家を目指す牧場配置の地域おこし協力隊を含む男性１名、女性３名のスタッフを指導している。

留学費用は年間 60 万円で、食費・修学旅行費を含む。令和２年度の留学生は 20 名で、中学男子６名は男子寮、中学女子８名は女子寮、中学女子３名と小学女子３名は里親施設に振り分けられている。男子寮は地域おこし協力隊員、女子寮は保育士 OG、里親施設は協力隊 OG が、それぞれ管理人となっており、いずれもＩターン者である。留学生の定員はこの寮等のキャパシティによるため、令和２年度は里親施設の開設で増やすことができ、11 人の募集に対し 30 人の応募があった。その結果、中学は複式から各学年１クラスに戻った。

留学生たちの多くは、中学生にもかかわらず、島の自然の価値と生き物の世話の楽しさ、さらには島の人のあたたかさについて、声を揃えて語っている。毎日の早朝からの馬の世話は全く苦にならないという。将来の職業についても、獣医、乗馬インストラクター、生き物にかかわる仕事、看護師などを希望しており、これも命の教育の真価を示している。寮では全員が明るく応対してくれたことからも、いい日々を過ごしていることがうかがわれた。昨年度の村の成人式では、島出身者２名に加えて、成人を迎えたしおかぜ留学１期生２名が両親とともに島の成人式に参加した。

多くの過疎地域で山村留学等が実施され、自然や農家からの学習が設定されているが、ここでは関係者の努力で、島の豊かな自然に、馬の飼育という命の教育の価値がさらに上乗せされている。このしおかぜ留学事業は、直ちに定住人口を増やすものではないが、この島の命の教育の場で過ごすことにより、子供たちが都市では身につかない生きる力を蓄えて巣立っていくことは、国にとっても大きな価値である。留学希望者が増える傾向にあることも踏まえ、極めて高く評価できる。



粟島浦小中学校は、ほとんどの学年で複式学級となっている。授業に参加する児童生徒自体の数が少ないため、教諭からのマンツーマンに近い丁寧な指導を受けることができる。



寮での集団生活は、携帯電話の禁止や就寝時間など多くの決まりがある。食事の提供は寮母が行うが、基本的な清掃や洗濯は自分達で行う。留学生は親元から離れていながらも、両親のありがたみを知る。



留学生は学校生活のみならず、多くの地域行事に参加する。地域が行う村内のゴミ拾いウォークにも、積極的に参加し、村内の美化と地域との触れ合いを行う。

DATA　新潟県 粟島浦村（あわしまうらむら）

団体名▶粟島浦村
所在地▶〒 958-0061 新潟県岩船郡粟島浦村字日ノ見山 1513-11
連絡先▶ TEL：0254-55-2111　FAX：0254-55-2159
E-mail：seisaku @vill.awashimaura.lg.jp
URL：http://www.vill.awashimaura.lg.jp/

【交通のご案内】
粟島浦村は離島のため、定期船が運航する「岩船港」からはフェリーまたは高速船となります。
自動車▶日本海東北自動車道　神林岩船港 IC より岩船港まで５分
鉄　道▶ JR 羽越本線を利用
村上駅からタクシーにて岩船港まで約 20 分
※乗合タクシーあり
航　路▶岩船港から普通船フェリーニューあわしまで約 90 分
高速船きららで約 55 分



● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
粟島浦村	825	595	449	438	366	370

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
粟島浦村	-55.2	-37.8	-17.6	-15.5	1.1

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
粟島浦村	40.5	8.9

20-09-343　令和2年度過疎地域自立活性化優良事例表彰パンフレット.indd　5-6　2020/11/11　20:33:27